

令和7年第一回定例会

会派代表質問



令和7年度区政運営方針・出張所改革について



問

令和7年度予算は過去最大を更新し、多様化細分化しつつある膨大な行政サービスの持続可能性は、労働人口の減少や行政DXが急速に進む中で、出張所の業務の簡素化・効率化が見込める。今後も区民に一番近いセーフティネットであり続けるためには、今現在の総合窓口機能によりアウトリーチを広げることが必要では無いか。区長の展望を伺う。

答弁

真に必要な行政サービスをみきわめ、質を維持しながら効率化を図る。多様な担い手との協働体制の強化、地域住民やNPO法人等と連携を深めることで多角的な視点から課題解決に取り組む。DX活用によるコミュニケーションの活性化で、迅速で総合的な組織運営を目指し、町会等地域コミュニティの支援に特化した人材活用について調査・研究をする。

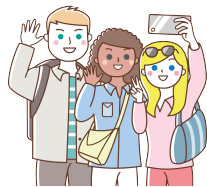


インバウンド・ゴミ対策、ねずみ対策について



問

インバウンドの増加による、ゴミの増加やマナーの違いによる治安の悪化に区民は困っている。日本のマナーやルールの周知徹底とゴミ対策の強化が必須である。スマートゴミ箱のようなIOTを活用したり、ネズミの発生を抑えるために区内飲食店へゴミ捨ての方法条例化など検討するべきでは。



答弁

『路上喫煙禁止』とチラシや客室テレビモニターでも呼びかけ、英語版の路上喫煙禁止シートなども設置する。IOTの活用や新しい技術を活用したポイ捨て対策の手法も検討していく。ねずみ対策についてはごみ出しルールの徹底に向けて、条例化も視野に広く区民の声を聞くとともに、有識者からなる審議会での議論を踏まえながら検討を進めていく。



子どものメンタルヘルスについて

問

子どもの不登校・自殺者数などは増加傾向にあり、その背景には乳幼児期からの地域の医療と社会的支援の不足が考えられる。区内の児童精神科を標榜している病院はいずれも初診に数ヶ月待ちなど大変混雑している状況で、児童精神医療の供給が日本の喫緊の課題である。慶應義塾大学では4月から小児科または精神科の専門医資格を取得した医師が対象に「子どものこころ専門医」を養成する研修プログラムも開始されるが、子ども人口の増加す

答弁

る千代田区としてやるべきこと、医療につながるまでの支援体制の充実について伺う。子どものメンタルケアの必要性が增大しているが、専門医の育成や医療機関の不足は全国的な課題となっており、本区においても充足しているとは言えない。保健所や児童・家庭支援センターにおいて各種相談事業、講演会等を実施しているが、引き続き関係機関とも連携しながら、子供のメンタルケアの体制確保に努めていく。



軽井沢少年自然の家について

問

この施設は令和7年度解体を迎え、全庁的に活用が検討されていく。軽井沢の広大な自然を生かし、区民にとってより良い施設にしてほしい。今後の展望は。

答弁

庁内に対し需要調査を行い、再活用する需要がなく令和7年度予算案において解体設計経費を計上している。建物解体した後の活用方法については、民間等のアイデアや財産運用上の観点からの活用も含めて幅広く検討していく。

農業教育について



問

大きな畑や田んぼのない千代田区では子どもたちの教育格差体験格差が生まれかねない。スーパーと直売所での値段の違い、無農薬無化学肥料使用の意義や課題点、そして倫理的社会的観点について学ぶ機会が少なく、食料自給率が低い日本は食料危機に陥ってしまう可能性もある。

答弁

区内に本社のあるJAや農林水産省とも連携して、大人にも子供にも、大都会の千代田区だからできる学びの機会を提供することが必要では。幼児期の段階から農作物栽培などの体験活動を中心とした教育活動を、各校・各園で工夫を凝らしながら取り組んでいる。教育の機会・学ぶ機会の確保&早出のために区内の農業関連団体などとの連携も研究する。